

平城宮跡利用実態調査

平城宮跡発掘調査部

平城宮跡来訪者の総数、性別、年令構成、居住地、来訪目的、滞在時間、交通手段、印象など、利用者の実態を把握し平城宮跡の公開・整備・管理等の基礎資料とする調査を「利用実態調査」と呼ぶ。当研究所ではこの調査を奈良女子大学住居学科近藤研究室に依頼し過去5回(1967, 68, 72, 74, 83年)実施してきた。これまでに実施した調査の結果は『平城宮整備調査報告Ⅰ』(1979年)に報告した。今回は6回目の調査となり特に本年(1988)4月から10月にかけては、ならシルクロード博覧会(以下「シルク博」と略す)が開催され、平城宮跡もその一會場となったことから、同博覧会開催時における利用実態の変化を把握することを主な調査目的とした。

調査は夏期(7月9, 10日)と秋期(10月15, 16日)の2回、いずれも平日より人出の多い土・日曜日とし延べ4日間実施した。4日間とも晴天に恵まれ外出に支障はなかったが、夏期の2日間はいずれも炎天下であった。調査内容は大きく2項目に分かれる。第1は時刻毎の来訪者実数をカウントするものであり、宮跡内の主要な入口6箇所からの来訪者を夏期は午前10時から午後5時まで、秋期は同じく午前10時から午後4時までの間について集計した(調査地点位置図参照)。集計は男女別、年令毎(幼少年・青年・壮年・老年の4段階)に行い、駐車場を伴う入口についてはさらに時刻毎の駐車台数もカウントした。第2はアンケート用紙を用いて来訪者に上記の項目について直接質問調査するものであり、夏期は2日間で409名(抽出率約6%), 秋期は同じく290名(同3.5%)から回答を得た。

まず、来訪者実数であるが7月9日(土)2,680人、10日(日)3,874人、10月15日(土)3,104人、16日(日)6,225人であった。覆屋東駐車場から入場した人が再び資料館北駐車場を経て入場した場合(あるいはその逆の順序でも同じ)には重複してカウントされるから、その分人数を差し引かねばならない。一方、今回の調査では、調査員の制約もあり午前10時以前と午後5時以降(秋期は午後4時以降)の来訪者をカウントできなかった。それらを他地域での早朝、夕方の調査データをもとに加減するとそれぞれの日の来訪者総数は上記の数値の10~20%増となるものと推定される。したがって、夏期の半休日3,000人、休日4,500人、秋期の半休日3,600人、休日7,200人前後の来訪があったと推定される。4日間の来訪者数から夏期及び秋期の来訪者総数を推定すると、夏期3箇月間に23万人前後、秋期3箇月間に29万人前後という結果を得た。アンケート調査によると、このうち約3分の2の人々がシルク博に関連した来訪であり、また奈良市内及び近隣からの来訪は3割であり、残る7割の人々が近畿圏、関東など全国各地からの来訪であった。

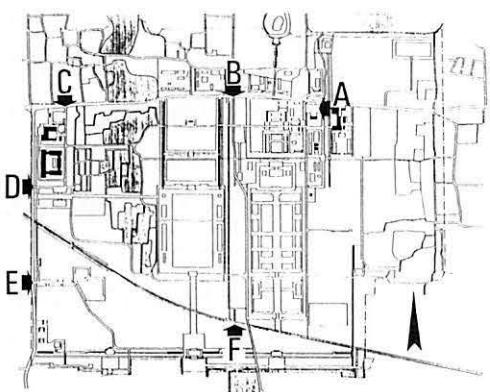
来訪者の男女比はおよそ6:4であり、男性がやや多い。年令構成は幼少年25%, 青年25%, 壮年40%, 老年10%であり老若男女という感じであるが、壮年層が若干目立った。交通手段別

にみると、このうち20~25%の人々がバスも含めた車利用であり、調査日4日間を平均すると宮跡内3箇所の駐車場にあわせて1日当たりバス10台、乗用車300台ほどの利用があった。この数値からは、徒歩利用の優勢と受け取れるが、これはシルク博のシャトルバスを利用し朱雀大路会場から入ってきた人々を徒步入場者としてカウントした結果であり、したがって、シャトルバスも含めた車利用の割合となると40~45%となる。すなわち、半数近い人々が乗用車やバスを利用していたことになるわけである。人数別の来訪者分布は、覆屋口(A)、資料館北口(C)、朱雀門口(F)の3箇所がいずれも全体の20%前後であり、他の3箇所(B, D, E)が各10%強であった。時刻別にみると、夏は日中が少なく朝夕が多いという偏りがみられたが、秋は一日中平均した来訪があったことがわかった。

次に来訪目的と滞在時間であるが、シルク博にともなう来訪者が多いことから約4分の3の人々が見学・観光を目的としており、残り4分の1の人々が休養・運動目的であった。シルク博が行われていないときの調査では見学・観光目的が15~20%であるから、通常時とは逆転した利用形態であったことがわかる。滞在時間は見学・観光の人々は1時間半、休養・運動は2時間が平均であり、シルク博がらみの見学者が比較的短時間に平城宮跡をまわっていたことを物語っている。また、シルク博期間中は「発掘体験」と称して毎日発掘調査現場を開いた。現場を訪れた人の割合は夏は5%，秋は現場が回遊コース・資料館に近いこともあって16%であった。実数でいうと少ない日で150人、多い日は1,000人を越える人々が発掘現場を見学しており、発掘調査現場に対する関心の高さをうかがわせた。施設等に対する要望では案内施設や整備の充実を望む人々が多く、また特に夏期の声としてレンタサイクルの設置を求める意見が強かった。

今回の調査ではシルクロード博覧会にともなって平城宮跡を訪れた人々が半年間で延べ35万人以上と推定され、それらの人々が近畿圏を中心に全国各地に及んでいたことが明らかになった。この種のイベントがもたらす集客効果と大勢の人々が訪れた場合の問題点など、平城宮跡の公開・整備・管理上の多くの有益な資料が得られた。

(高瀬 要一)



調査地点位置図



発掘調査現場（第194次）の見学風景